



鈴蘭台駅周辺整備を考える会

発行 平成8年12月17日

編集 鈴蘭台駅周辺整備を考える会事務局

ニュース
第7号

皆様のご意見に対して 現状をご説明します。

平成8年3月に発行しました「鈴蘭台駅周辺整備を考える会」ニュース第5号において、地域の皆さんから寄せられた主なご意見、ご提案などを紹介しました。

今号では皆様のご意見をもとに会の活動や鈴蘭台駅周辺の整備に関する検討経過など、現状をご説明します。

1 鈴蘭台の現状を憂う！

(意見の要旨)

道路が狭く、そのうえ不法駐車が多い。バス交通の便も悪い。「鈴蘭台」という名にふさわしい素敵な町にしてほしい。

(現 状)

昭和30年代後半は約2万人の人口であった鈴蘭台地域も、昭和40年代から周辺部の宅地化が急速に進み、現在では約14万人(本区)になっています。昭和39年には南北道路となる鈴蘭台幹線(幅員20m、小部小学校付近～小部明石線)と鈴蘭台環状線(幅員16m、駅前～中山橋～南五葉～西鈴蘭台駅～北五葉～小部小学校)、駅前広場(約3100㎡)が都市計画決定され、その後、幾度かまちづくりの気運もあったのですが、事業着手までには至らず推移してきたという経緯があります。

このため駅周辺は前号の「交通量調査」の結果にみられるように狭いスペースに人や車が交错しているのが実情です。また、この間、鈴蘭台を巡る状況も様変わりしてきました。「考える会」では道路・交通・商業施設・公共施設など周辺地域の状況も分析しながら、鉄道の分岐点であり、北区内で最も乗降客数が多いという立地の良さを生かしたまちづくりを検討しています。

鈴蘭台地区周辺現況図

